

1. 略歴

- 1985年7月 北京大学中国語言文学系古典文献専攻卒業
1988年7月 北京大学中国語言文学系古典文献専攻修士課程修了
1988年7月 北京大学中国語言文学系・古文獻研究所助手
1990年8月 北京大学中国語言文学系・古文獻研究所専任講師（～1995年3月）
1994年2月 慶應義塾大学附属研究所斯道文庫訪問研究員（～1995年1月）
1994年8月 東京大学東洋文化研究所外国人研究員（～1995年3月）
1998年3月 東京大学大学院人文社会系研究科アジア文化研究専攻（東アジア思想文化専門分野）
博士課程単位取得退学
1998年4月 文部省学術振興会特別研究員 PD
1999年4月 日本女子大学人間社会学部文化学科専任講師（～2003年3月）
2001年4月 東京大学大学院人文社会系研究科博士（文学）学位取得
2003年4月 日本女子大学人間社会学部文化学科助教授
2004年4月 国文学研究資料館研究部助教授
2007年4月 国文学研究資料館研究部准教授
2013年4月 国文学研究資料館研究部教授
2017年4月 東京大学大学院人文社会系研究科 教授

2. 主な研究活動

a 専門分野

中国書籍史 東アジアの書籍交流史 日中文化交流史

b 研究課題

1. 明清時代の中国における叢書出版について
2. 江戸時代の詩経学と博物学
3. 江戸～明治時代の日中学術交流

c 概要と自己評価

東アジアの文化交流を視野に入れながら、日本と中国の書籍文化と学術交流史を研究している。本期間では引き続き江戸時代の中国文化の受容と多元文化を中心に研究を進め、引き続き詩経学と博物学との関係に注目し、また、江戸時代中後期における「好古家」の活動について研究を着手した。なお、近代における日中学術交流に関する新資料の整理研究を行い、当該分野における基本資料の整備に貢献した。

d 主要業績

(1) 論文

陳捷、「乾隆・嘉慶期における叢書の編纂と出版についての考察」、川原秀城編『漢学とは何か—漢唐および清中後期の学術世界』（アジア遊学 249）、pp.148-172、勉誠出版、2020.7

陳捷、「An Examination of the Compilation and Publication of Collectanea during the Ch'ien-lung and Chia-Ch'ing Reigns」、*What Is Han Scholarship?: With a Focus on the Han-T'ang and Mid-to Late Ch'ing Periods, ACTA ASIATICA: Bulletin of the Institute of Eastern Culture*、No.120、The Tōhō Gakkai、pp.51-72、2021.2

陳捷、「ベトナム使節阮輝登の漢詩『餞日本使回程』の釈読について」、『東洋文化研究所紀要』第187冊（2021年度第2期）、pp.1-28、東京大学東洋文化研究所、2022.3、査読あり

陳捷、「服部繁子撰『(清)家庭及学堂用)家政学』における西洋料理とそのエチケットについて」、『環日本海研究年報』第27号、pp.64-84、新潟大学大学院現代社会文化研究科環日本海研究室、2022.3、査読あり

(2) 学会発表等

国際、陳捷、「日本江戸中後期好古家對古代書籍裝訂形式和裝具的研究」、台灣東吳大學文獻學會議、2020.12.6

国際、陳捷、「一位清末外交官眼中的明治日本」、「日照高山」青年學者論壇、台灣中央研究院文哲研究所・清華大学共催、2020.12.11-12（主題講演）

国際、陳捷、「江戸博物学与詩経名物学研究浅談」、首都医科大学中医薬学院主催「亚洲医学文献与医学史」專題論壇、2021.3.13

国際、陳捷、「江戸博物学と詩経名物学研究」、司会・研究発表、北京大学国際漢学家研修基地東亜漢籍伝播研究工作坊、2021.4.3

国際、陳捷、「『清国家家庭及学堂用』家政学』中的西洋飲食及西餐礼儀」、「近代の“西餐”、“洋飯書”及び“大餐館”」
国際シンポジウム、2021.11.18-19

(3) 研究テーマ

1、科研費の研究代表者（1件）

文部科学省科学研究費補助金、基盤研究（C）、研究代表者：陳捷

研究テーマ：「明清時代における濠洲（江西金溪）の出版業に関する総合的研究」

2、科研費の研究分担者（3件）

1. 2019～2022年度（研究種目：国際共同研究加速基金（国際共同研究強化（B）、研究代表者：住吉朋彦）

「在米日本漢籍の蔵書学—今関天彭蒐集書を事例として—」

2. 2020～2024年度（研究種目：基盤研究（A）、研究代表者：住吉朋彦）

「江戸幕府紅葉山文庫の再構と発信—宮内庁書陵部収蔵漢籍のデジタル化に基づく古典学—」

3. 2020～2022年度（研究種目：挑戦的研究（開拓）、研究代表者：伊東乾）

「機械学習を用いた東アジア数理調和思想の実証的研究と共生倫理の検討」

3. 主な社会活動

(1) 他機関での講義等

国際日本文化研究センター、研究員、2020.4～

(2) 学会

中国社会文化学会、理事

日本中国学会、会員